

# 2019 年 IEEE 関西支部 総会資料

2019 年 2 月 22 日  
IEEE 関西支部

## 総会資料目次

I.	2019 年関西支部役員・理事	1
II.	2019 年 KANSAI CHAPTER 役員	5
III.	2019 年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	7
IV.	2018 年 活動報告 および 2019 年活動計画	9
V.	関西支部会員数	43
VI.	2018 年 会計報告	45
VII.	2019 年 予算	47
VIII.	受賞者	49
	参考情報	50



## 2019 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時:2019 年 2 月 22 日(金) 14 時 00 分~17 時 30 分
2. 場所: 中央電気倶楽部  
〒530-0004 大阪市北区堂島浜 2 丁目 1 番 25 号
3. 総会スケジュール
  1. 役員・理事紹介
  2. 2018 年活動報告および 2019 年活動計画
  3. 2018 年会計報告および 2019 年予算
  4. Chapter 役員および活動紹介  
<休憩>
  5. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
  6. IEEE 関西支部メダル授賞式
  7. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介  
<休憩>
  8. 特別講演 (IEEE Presiden-Elect 名城大学 福田先生)  
<休憩>
  9. Supporting Friend of IEEE MGA Award 授賞式
  10. 閉会の挨拶



## I. 2019年関西支部役員・理事

### 1. 役員 (Section Officers)

Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
Vice Chair:	梅田 信雄	(関西電力)
Secretary:	西村 和敏	(関西電力)
Treasurer:	小野 俊二	(K4 Digital)

### 2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	佐藤 高史	(京都大学)
NC Chair:	畑 豊	(兵庫県立大学)
SAC Chair:	福水 洋平	(立命館大学)
TPC Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
AC Chair:	伊野 文彦	(大阪大学)
COC Chair:	戸出 英樹	(大阪府立大学)

### 3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	中村 行宏	(京都大学名誉教授)
WIE AG Chair:	上田 悦子	(大阪工業大学)
YP AG Chair:	伊原 彰紀	(和歌山大学)

### 4. 理事 (Past Officers)

Past Chair:	山本 幹	(関西大学)
-------------	------	--------

### 5. 理事 (Past Committee Chair)

Past MDC Chair:	福井 正博	(立命館大学)
Past SAC Chair	川村 新	(京都産業大学)
Past TPC Chair	田邊 信二	(三菱電機)
Past AC Chair	土屋 達弘	(大阪大学)
Past COC Chair	梶川 嘉延	(関西大学)

### 6. (Observer)

Past Vice Chair	水落 隆司	(三菱電機)
Past Secretary	武田 保孝	(三菱電機)
Past Treasurer	岡 誠次	(三菱電機)
Past NC Chair	石渕 久生	(大阪府立大学)

## 7. Committee Officers

### a. Membership Development Committee

Chair:	佐藤 高史	(京都大学)
Secretary:	新谷 道広	(奈良先端科学技術大学院大学)
Member:	勅使川原 正樹	(オムロン)
	中村 孝夫	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府立大学)
	浅井 明	(パナソニック)
	村松 純	(日本電信電話)
	満仲 健	(シャープ)
	佐々木 鉄雄	(関西電力)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	小林 浩	(三菱電機)
	中島 重義	(大阪市立大学)
	木村 啓明	(ローム)
	尾原 郁夫	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	柏 卓夫	(古野電気)
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)

### b. Nominations Committee

Chair:	畑 豊	(兵庫県立大学)
Member:	白川 功	(兵庫県立大学)
	石渕 久生	(大阪府立大学)

**c. Student Activities Committee**

Chair:	福水 洋平	(立命館大学)
Member:	衣斐 信介	(大阪大学)
	塩見 準	(京都大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	加藤 恒夫	(同志社大学)
	市川 晃平	(奈良先端科学技術大学院大学)
	磯川 悌次郎	(兵庫県立大学)
	平田 孝志	(関西大学)
	木原 崇雄	(大阪工業大学)
	澤田 祐一	(京都工芸繊維大学)
(Student Representative)	森田 俊平	(京都大学)

**d. Technical Program Committee**

Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
Vice Chair:	上田 哲三	(パナソニック)
Secretary:	福森 隆寛	(立命館大学)

**e. Awards Committee**

Chair:	伊野 文彦	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	太田 能	(神戸大学)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	林 海	(大阪府立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	杉山 久佳	(大阪市立大学)
	中村 匡秀	(神戸大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	村田 英一	(京都大学)
	山田 晃久	(モリタホールディングス)
	杉原 英治	(大阪大学)
	和田 友孝	(関西大学)



#### f. Chapter Operations Committee

Chair:	戸出 英樹	(大阪府立大学)
Secretary:	藤本 章宏	(和歌山大学)
Member:	吉本 昌広	(京都工繊大)
	中島 雅逸	(ソシオネクスト)
	小西 啓治	(大阪府立大学)
	出口 博之	(同志社大学)
	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
	田中 輝明	(三菱電機)
	真田 篤志	(大阪大学)
	加藤 友章	(日本電気)
	中谷 智広	(日本電信電話)
	西村 良太	(徳島大学)
	太田 快人	(京都大学)
	森實 俊充	(大阪工業大学)
	戸川 欣彦	(大阪府立大学)

#### g. Life Members Affinity Group

Chair:	中村 行宏	(京都大学名誉教授)
Vice Chair:	小林 正明	(元三菱電機)
Vice Chair:	森田 修三	(元富士通)
Vice Chair:	櫛木 好明	(元パナソニック)
Secretary:	平野 和夫	(元住友電気工業)
Secretary:	杉本 繁	(元パナソニック)

#### h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	上田 悦子	(大阪工業大学)
Vice Chair:	崔 恩濤	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	松川 真美	(同志社大学)
Secretary:	熊木 武志	(立命館大学)
Treasurer:	辻川 美沙貴	(パナソニック)

#### i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	伊原 彰紀	(和歌山大学)
Vice Chair:	佐藤 丈博	(京都大学)
Secretary/Treasurer:	岩居 健太	(立命館大学)

## II. 2019年 Kansai Chapter 役員

### 1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	吉本 昌広	(京都工繊大)
Vice Chair:	渡辺 博文	(リコー)
Secretary:	西中 浩之	(京都工繊大)
Treasurer:	安藤 友一	(リコー)

### 2. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	中島 雅逸	(ソシオネクスト)
Vice Chair:	小林 和淑	(京都工芸繊維大学)
Secretary:	坂東 要志	(ソシオネクスト)
Treasurer:	西村 佳壽子	(パナソニック)
	新居 浩二	(フローディア)

### 3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	小西 啓治	(大阪府立大学)
Vice Chair:	武内 良典	(近畿大学)
Secretary:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)
Treasurer:	木村 真之	(京都大学)

### 4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	出口 博之	(同志社大学)
Vice Chair:	何 一偉	(大阪電気通信大学)
Secretary:	藤森 和博	(岡山大学)
Treasurer:	山岸 傑	(住友電気工業)

### 5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	熊本 和夫	(大阪工業大学)
Secretary:	林 海	(大阪府立大学)
Treasurer:	和田 友孝	(関西大学)

#### 6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	田中 輝明	(三菱電機)
Vice Chair:	吉岡 康介	(パナソニック)
Vice Chair:	新谷 道広	(奈良先端大)
Secretary:	小西 一暢	(パナソニック)
Treasurer:	今川 隆司	(立命館大学)

#### 7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	真田 篤志	(大阪大学)
Vice Chair:	檜橋 祥一	(摂南大学)
Secretary:	上田 哲也	(京都工芸繊維大学)
Secretary:	堀口 健一	(三菱電機)
Treasurer:	三谷 友彦	(京都大学)

#### 8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	加藤 友章	(日本電気)
Vice Chair:	小西 毅	(大阪大学)
Secretary:	戸田 裕之	(同志社大学)
Treasurer:	大和屋 武	(三菱電機)

#### 9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	中谷 智広	(日本電信電話)
Vice Chair:	中村 哲	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	木下慶介	(日本電信電話)
Treasurer:	藤本雅清	(情報通信研究機構)

#### 10. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	西村 良太	(徳島大学)
Vice Chair:	Thi Thi Zin	(宮崎大学)
Vice Chair:	後藤 富朗	(名古屋工業大学)
Secretary/Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

### 11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	太田 快人	(京都大学)
Vice Chair:	鷹羽 浄嗣	(立命館大学)
Secretary:	和田 孝之	(大阪大学)
Treasurer:	丸田 一郎	(京都大学)

### 12. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Chair:	森實 俊充	(大阪工業大学)
Vice Chair:	笠 展幸	(岡山理科大学)
Secretary:	柿ヶ野 浩明	(立命館大学)
Treasurer:	麻原 寛之	(岡山理科大学)

### 13. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	戸川 欣彦	(大阪府立大学)
Vice Chair:	平岡 耕一	(愛媛大学)
Secretary:	藤枝 俊	(大阪大学)
Treasurer:	宍戸 寛明	(大阪府立大学)

## III. 2019 年関西支部 Student Branch 役員

### 1. 大阪大学 (<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)
Chair:	伊藤 雅博	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	上田 将理	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	渡 大地	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	石原 好貴	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻

### 2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	塩見 準	(京都大学 情報学研究科)
Mentor:	近村 啓史	(株式会社フィックスターズ)
Chair:	新 瑞徳	情報学研究科
Vice Chair:	森本 和志	情報学研究科
Treasurer:	中村 公暉	情報学研究科
Secretary:	松田 崇史	情報学研究科

### 3. 立命館大学(<http://www.ieee.se.ritsumeai.ac.jp/J/main.html>)

Counselor:	福水 洋平	(立命館大学 理工学部 電気電子工学科)
Chair:	西川 広記	理工学研究科 電子システム専攻
Vice Chair:	瀬尾 賢哉	理工学研究科 電子システム専攻
Treasurer:	坂向 良太	理工学研究科 電子システム専攻
Secretary:	宮崎 貴史	理工学研究科 電子システム専攻

### 4. 奈良先端科学技術大学院大学(<http://ieee-sb-naist.github.io/>)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	中才 恵太郎	<a href="http://ieee-sb-naist.github.io/">http://ieee-sb-naist.github.io/</a>
Vice Chair:	上村 恭平	<a href="http://ieee-sb-naist.github.io/">http://ieee-sb-naist.github.io/</a>
Treasurer:	辻 光顕	<a href="http://ieee-sb-naist.github.io/">http://ieee-sb-naist.github.io/</a>
Secretary:	高田 大樹	<a href="http://ieee-sb-naist.github.io/">http://ieee-sb-naist.github.io/</a>

### 5. 兵庫県立大学(<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>)

Counselor:	上浦 尚武	(兵庫県立大学 工学研究科 電子情報工学専攻)
Mentor:	中嶋 宏	(オムロン株式会社)
Chair:	西尾 祥一	工学研究科 電子情報工学専攻
Vice Chair:	井城 一輝	工学研究科 電子情報工学専攻
Treasurer:	丸居 航	工学研究科 電子情報工学専攻
Secretary:	久保 有輝	工学研究科 電子情報工学専攻

### 6. 関西大学([http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee\\_sb/](http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/))

Counselor:	大村 泰久	(関西大学 教授)
Mentor:	辻川 剛範	(日本電気 情報・メディアプロセッシング研究所)
Chair:	永田 光輝	情報通信工学研究室
Vice Chair:	敷島 明人	情報ネットワーク研究室
Vice Chair:	西川 拓宏	画像処理工学研究室
Treasurer:	中川 京佑	音情報システム研究室

### 7. 同志社大学(<https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	高橋 康人	(同志社大学 准教授)
Chair:	近藤 修平	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Vice Chair:	梅崎 直統	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Treasurer:	菊池 淳文	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Secretary:	西山 育宏	大学院理工学研究科 情報工学専攻

## IV. 2018 年 活動報告 および 2019 年活動計画

### 1. 総括

#### 【2018 年活動報告】

関西支部創立より支部の運営に貢献してきた企業 6 社(日本電信電話、関西電力、シャープ、パナソニック、住友電気工業、三菱電機)に対して、2018 Supporting Friend Award of IEEE Member and Geographic Activities (MGA) を申請し、IEEE 本部より認められた。今後も引き続き産業界との連携を深め、活動の活性化をはかる。

Affinity Group の活動では、Student Branch (SB) と Life Members Affinity Group (LMAG) 共同でのブレインストーミング大会や、SB による英語プレゼン大会での LMAG からの優秀者表彰により、SB と LMAG との連携が進んでいる。また、8 月にバリ島において開催された Region 10 SYWL Congress への SB からの参加や、11 月に東京において開催された IEEE Women in Engineering (WIE) International Leadership Summit 2018 への WIE からの参加等他地域との交流を行った。

会員数について 2018 年の会員増強目標を達成し、IEEE 本部より“2018 Outstanding Section Membership Recruitment Performance”を受賞した。

#### 【2019 年活動計画】

2019 年は、引き続き Chapter 活動、Student Branch 活動、Affinity Group 活動にも積極的な支援を行い、活動の継続を図る。

### 2. 総会

#### 【2018 年活動報告】

2018 年 2 月 28 日(水)に関西大学梅田キャンパスにおいて、参加 58 名により 2018 年総会を開催。各 Committee、Chapter、Affinity Group から、2017 年の活動実績、2018 年の活動計画を報告。関西支部より 2017 年活動の総括、2017 年決算、2018 年予算を報告し承認された。

総会にあわせて Young Professional 賞授賞式、学生研究奨励賞授賞式、関西支部メダル授与式、新フェロー紹介を実施。



学生研究奨励賞受賞者  
Chair, ViceChair と共に



関西支部メダル受賞者  
Chair, ViceChair と共に

### 【2019年予定】

2019年は2月22日(金)14:00~17:30の予定で、定例総会を実施する。

## 3. 理事会

### 【2018年活動報告】

- 第1回理事会 1月30日(火) 関西大学梅田キャンパス7階703会議室 出席者13名  
・2018活動・予算計画の確認 ・関西支部総会準備
- 第2回理事会 2月28日(水) 関西大学梅田キャンパス8階大ホール 出席者15名  
・関西支部総会準備(段取り、資料の最終確認)
- 第3回理事会 5月28日(月) 関西大学梅田キャンパス7階703会議室 出席者14名  
・YP賞・学生研究奨励賞の公募要領審議 ・R10 Meeting 報告  
・第1回 Japan Council (JC) 理事会報告 ・会計状況報告  
・2019役員候補選出のための Executive Nomination Committee (ENC) 設立
- 第4回理事会 7月24日(火) 関西大学梅田キャンパス6階605会議室 出席者13名  
・第2回 JC 理事会報告 ・会計状況報告
- 第5回理事会 9月10日(月) 関西大学梅田キャンパス7階702会議室 出席者14名  
・ENCによる役員候補確認と公示準備 ・各 Committee/Affinity Group の Chair 候補確認  
・Supporting Friend of IEEE 受賞の確認と表彰式計画
- 第6回理事会 12月21日(金) 関西大学梅田キャンパス7階701会議室 出席者13名  
・2019年理事会体制について ・2018年 YP 賞、学生研究奨励賞承認  
・2019年活動計画 ・2018年会計報告/2019年予算案

### 【2019年活動計画】

総会 2019年2月22日

2019年は年間5~6回の理事会を計画する。

## 4. 関西支部主催講演会

### 【2018年活動報告】

Technical Program Committee (TPC)および LMAG、WIE、Young Professionals (YP)

AGとの共同企画により、年間5回の見学会・技術講演会を開催した。詳細についてはTPCの項目に記載。

#### 【2019年活動計画】

2019年も年間5回程度の講演会を開催し、支部活性化を図る。

### 5. Region 10 Meeting

#### 【2018年活動報告】

2018年3月3日(土)～4日(日)の日程でマレーシアにおいて開催された Region 10 Meeting に、関西支部より Chair が参加、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努めた。

#### 【2019年活動計画】

2019年3月2日～3日にメルボルンに於いて開催される R10 Meeting に、関西支部より例年通り参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

### 6. R10 SYWL Congress

#### 【2018年活動報告】

2018年8月30日(木)～9月2日(日)にインドネシアのバリにおいて開催された R10 SYWL Congress に関西支部から学生1名が参加、各国の学生との情報共有及びネットワークの構築を行った。

#### 【2019年活動計画】

2019年も、継続して活性化するため、Student/YP/WIE/LMAG について上位組織で開催される活動への参加を積極的に支援する。

### 7. 協賛会議

#### 【2018年活動報告】

- ・第5回電子デバイスフォーラム京都

主催:(一社)日本電子デバイス産業協会(NEDIA)

日時:2018年10月31日(水)10:00～11月1日(水)18:00

場所:京都リサーチパーク(KRP)

- ・平成29年 電気関係学会関西連合大会

主催:電気学会 関西支部

電子情報通信学会 関西支部

映像情報メディア学会 関西支部

電気設備学会 関西支部

日時:2018年12月1日(土)～2日(日)

場所:大阪工業大学大宮キャンパス



## 8. 情報発信

### 【2018 年活動報告】

関西支部 Web ページ

下記ホームページで、技術講演会の案内等情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

### 【2019 年活動計画】

関西支部 Web ページ

関西支部のホームページで、各種情報を発信して、会員メリットの向上に努める。

Newsletter もタイムリーに発信をしていく。

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れる。

### 【Newsletter の発行】

No.33(2018 年 4 月 26 日発行)：総会の様子や YP 賞、学生研究奨励賞の受賞者紹介をはじめ、新 Fellow メンバー、新 Senior メンバーの紹介、技術講演会等の開催情報を掲載。

No.34(2018 年 9 月 20 日発行)：2019 年・2020 年の関西支部役員および理事候補者の広告、YP 賞、学生研究奨励賞募集のお知らせ、技術講演会の開催情報、関西支部運営に貢献のあった企業 6 社への Supporting Friend of IEEE 受賞のお知らせ等を掲載

## 各 Committee/Affinity Group からの報告

### a. Membership Development Committee

#### 【2018 年活動報告】

2018 年は、2 回の MDC&SAC&YP Joint Workshop を開催した。第 1 回は 5 月 22 日(火)に、第 2 回を 11 月 20 日(火)にそれぞれ新大阪で開催した。MDC、SAC、YP に参加している委員の組織を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。

2018 年 11 月 20 日現在、会員数は 2,198 名となった。会員数の減少を食い止めるためには Renew のし忘れを防ぐことが重要な課題であるため、Renew 時期に適宜その旨のメールを配信した。また、シニアメンバーへのアップグレードを推進することを活動の中心としてアップグレードのためのスキームを構築し、そのサポートを行っている。その結果、2018 年の昇格者が 8 名となった。

#### 【2019 年活動計画】

2019 年は、新体制のもとで会員増に向けた活動を行う。これまでと同様に MDC/SAC/YP と連携しながら、特に若手を中心とする新規会員の増加に向けた活動に注力する。

MDC/SAC/YP Joint Workshop を年 2 回(5 月頃、11 月頃)開催し、Committee 間の情報交換、連携を通して会員数増に向けた活動を行う。

- MDC/SAC/YP Joint Workshop を年 2 回(5 月頃、11 月頃)開催し、Committee 間の情報交換、連携を通して会員数増に向けた活動を行う。
- ホームページでのシニアメンバーへのアップグレードへの手続きの紹介、サポートを通して、シニアメンバーの一層の増加を目指す。
- 学会や研究会における広報活動 (IEEE のポスターやパンフレットの配布等) により、IEEE 会員数の積極的な増加を図る。
- 定期的に Renew 促進のメールを送信して Renew 忘れによる会員減を防ぐ。

### b. Nominations Committee

#### 【2018 年活動報告】

2018 年 3 月 1 日締め切りの 2019 年 Fellow Nomination に際し、関西支部から数名の Fellow 推薦を行なった。その結果、1 名の Fellow 昇格となった。

#### 【2019 年活動計画】

2019 年は、2019 年 3 月 1 日締め切りの 2020 年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼するとともに、現 Senior に対しても Nominee となることを勧める。

## c. Student Activities Committee

### 【2018 年活動報告】

SAC では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行った。

- (1) 既存 7 大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB)を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB 間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) MDC と SAC、YP と合同で Workshop を開催(6 月, 11 月)し、連携して会員の増強、YP 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (3) 各 SB の Chair を集め Student Branch Chair Meeting を開催(5 月 27 日)。前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行うとともに、互いに交流を深めた。
- (4) 2016 年からスタートした SB 研究交流会を、今年度も引き続き 7 月 15 日に兵庫県立大学において実施した。各 SB からの研究発表に加え、スペシャルゲストとして、株式会社グローリーの鶴飼和歳様にご講演いただいた。その後、交流会を実施した。
- (5) SB 全体のイベントとして、立命館大学 English Presentation Competition を 11 月 16 日に実施した。優秀発表者に IEEE 関西支部 SAC から表彰状を授与した。また、関西支部からの補助を受け、懇親会を実施した。
- (6) SB と LMAG との共同企画としてブレインストーミングコンテストを 9 月 30 日に立命館大学梅田キャンパスにて企画・準備していたが、台風により中止となった。
- (7) AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。詳細は Award Committee 報告の項を参照のこと。
- (8) 12 月 9 日に立命館大学梅田キャンパスにおいて、年末交流会(引継ぎ会)を実施し、各 SB の活動状況の報告および次年度の活動計画について議論した。

### 【2019 年活動計画】

#### (1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、その他の大学、高専を対象に新 SB の設立を目指す。

#### (2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。また、LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。さらに、各企画の学生会員増への貢献度を精査する必要がある。

#### (3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を(AC と共同により)継続して企画し、

優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. **Technical Program Committee**

【2018 年活動報告】

以下の表に示す計 5 回の技術講演会を実施した。

	開催日	場 所	講 演 者	参加者数 (IEEE 会員)	共催・協賛組織名
第 101 回	2018 年 3 月 26 日	テーマ: テクニクス感性価値創造への挑戦 ~技術と心をつなぐ~			
		パナソニック Wonder LAB Osaka	小川 理子 氏 (パナソニック執行役員)	32 (24)	IEEE 関西 LMAG IEEE 関西 WIE
第 102 回	2018 年 5 月 14 日	テーマ: カルチュラルコンピューティングからアートイノベーションへ			
		京都高度技術 研究所 (ASTEM)	土佐 尚子 教授 (京都大学情報環境機構)	26 (16)	IEEE 関西 LMAG IEEE 関西 WIE
第 103 回	2018 年 7 月 31 日	テーマ: 講演: 私が観て体験した人工知能 ワークショップ: 人工知能の実世界応用の基礎と展開			
		立命館大学 びわこくさつ キャンパス	講演: 白井 良明 教授 ワークショップ: 松井直志 博士、福森隆寛博士、谷 口彰博士 (立命館大学)	37 (19)	立命館大学
第 104 回	2018 年 10 月 2 日	テーマ: NTT 研究所における R&D の取り組みについて			
		NTT EV 研 大阪オフィス (見学) 立命館 大阪 梅田キャンパス (講演)	伊藤 新 氏 (NTT 情報ネットワーク総 合研究所 所長)	45(12)	
第 105 回	2018 年 12 月 12 日	テーマ: 「あなたはどうかありたい、そして、どうか最善をつくす」 "Who You Are and How to Be Your Best"			
		大阪工業大学 梅田キャンパス	カレン・バートルソン (Karen Bartleson) (前 IEEE 会長)	48(21)	IEEE 関西 WIE 大阪工業大学

### 【2019 年活動計画】

2018 年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2019 年も 5 回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

特に特定の Chapter に属さないような横断的/学際的分野、技術の方向性、イノベーション、グローバル化といった内容の講演会も積極的に開催する。

## e. Awards Committee

### 【2018 年活動報告】

「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、これまでと同様に 2018 年も継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。本年度は 6 月に募集を開始し、10 月 5 日を応募期限として応募者を募った。当委員会と SAC による選定の後、12 月 21 日の支部理事会において 5 名の受賞者を決定した。

また、2014 年～2017 年に引き続き、「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」の募集を行った。学生研究奨励賞と同様、6 月に募集を開始し、10 月 5 日に応募を締め切った。しかしながら、上記理事会にて、2018 年度については該当者なしと決定した。

### 【2019 年活動計画】

2019 年は従来からの厳正な選考過程の実践を継続するとともに、2018 年度の両賞の受賞者数の減少を鑑み、これまで以上に応募者の増加に努める。「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」ならびに「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」を、それぞれ若手会員と学生会員の増強施策として位置づけ、関西支部が関与する種々の研究集会において賞の存在をより積極的に周知する。特に、YP 賞に関しては、2014 年より学生会員のカテゴリーが独立して設けられたのにも関わらずこれまで受賞者がいないため、SAC とも協調し、Student Branch での活動等 IEEE への貢献が顕著な学生に、同賞への応募を積極的に呼びかける。

## f. Chapter Operations Committee

### 【2018 年活動報告】

現存 Chapter の活動を支援するとともに、Chapter 新設への支援を行っている。具体的には、JC COC と連携して進めている本部へのオンライン書類提出、Chapter 支援費、国際会議実施での MOU 締結手続き、ソサイエティ別 Section 所属会員数の提供、petition 作成支援等である。また、Kansai Section 下の Chapter Chair を交えた Kansai Section COC Meeting を開催し、MOU 締結手続きの詳細説明ならびに意見交換を行った。

### 【2019 年活動計画】

2019 年は、関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して、各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行う

報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、上記の情報共有ならびに交換を目的として Kansai Section の COC Meeting も継続的に実施する。

#### g. Life Members Affinity Group

##### 【2018 年活動報告】

活動 6 年目として LMAG 活動を活性化させるべく、3 回の現地講演会&見学会を技術講演会の一環として開催し、うち 2 回を関西支部 TPC と共催した。3/26(月)パナソニック Wonder LAB Osaka、5/14(月)(公益財団法人)京都高度技術研究所(ASTEM)、9/8(土)京大病院先制医療・生活習慣病研究センターハイメディック棟、以上のそれぞれにおいて、LMAG が主体となった現地講演会を開催した。各講演会の後には、有志による懇親会を開催し、今後の進め方や教育のありかたなどを論議し、メンバーの親睦を深めた。これらにより現地講演会というスタイルがいつそう定着した。

また、役員会は 2018 年度には 5 回開催した。2/28(水)支部総会直前の役員会として、年間スケジュール、現地講演会、サロン企画、動員計画、連携企画について、6/25(月)年間計画状況、ゴルフサロン、京大病院ハイメディック、SB 連携打ち合わせ、会計状況、英語 Newsletter、次期体制(2019,2020)について、7/25(水)2019 体制案、実施状況の共有、英語版 newsletter、会員増強の諸方策案、について、9/8(土) 9 月公示の次期体制、英語版 letter、以降の日程について、12/19(水) 2018 活動報告、2019 分担体制、2019 活動計画について打ち合わせを行い、2019 年度の実施計画が策定できた。

これらの中で、次期(2019,2020)役員体制案を 9 月に会員メールにて公示し、11 月初め時点でその内容で確定した。次期 Chair には、元関西支部 Chair の中村先生、Vice-Chair は陣容を強化して 3 名体制、Secretary も 2 名体制と陣容が強化された。

2016 年に新たな活動として開始した気さくな LMAG サロンの継続を行っている。4/21(土)にドラムとブルースハーブサロンを元京都大学 奥村先生による”科学技術から音楽へ--大学退官後の新たなチャレンジ--”と題しての演奏パフォーマンスとトーク、11/21(水)にゴルフサロンを、情報処理学会会員かじさんによる“ゴルフ上達はクラブフィッティングから”と題しての講演を、それぞれ開催した。

他組織との連携も密になってきた。SB 連携 研究交流会(7/5)、SB 英語プレゼン大会(11/16)に参加。また、今年度からこの大会の優秀賞の一つとして「LMAG Kansai Award」(表彰状及び副賞賞金)を設け 2 名の学生に授与した。9/29 開催の WIE シンポジウム(講演とワークショップ)にも参加した。9/30 に開催される予定で参加の予定だった SB ブレイクインストーミングの会は台風接近のため中止となった。

NEWSLETTER 発行については、英語が公用語の学会らしく、英語にて NEWSLETTER を発行することに決め、その初版を 9 月に発行した。今後も年 1, 2 回を目標に継続していく。また、これに備えて「LMAG 関西 英語版 Newsletter 用 和英対照 単語帳」を整え

た。

#### 【2019年活動計画】

2019年は活動7年目として、新役員体制のもとで活動をより活発化させる。2018年と同様に関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会(現地講演会も含む)を開催する。すでに4件の具体的な企画が進行中である。LMAG サロンの活動を定着させることも大きな目標である。2018年にはより活発なサロン形式を目指したい。また、YP や SB, WIE との連携を積極的に進める。具体的には、連携先の諸活動に経験豊かな LMAG メンバーも参加して、今年も LMAG 賞の授与をするなど、幅広い視点から IEEE 関西の活動を支援する。

これらの活動を「Kansai-LMAG Newsletter」として公開し、広く参加を呼び掛けるとともに活動報告する。

## WIE Affinity Group

### 【2018 年活動報告】

#### (1) Kansai WIE シンポジウム

9月29日(土)に大阪工業大学梅田キャンパスにおいて、「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2018 – Enjoy Science, Technology and Your Life!」を開催した。Young Professionals (YP) AG, 同志社大学 StudentBranch, 大阪大学 StudentBranch, 大阪工業大学に共催いただき、企画・広報・会場設備面に関して協力し準備を行った。また、内閣府男女共同参画局にご後援いただき、広報面での支援を受けた。

シンポジウム前半では、3名の女性研究者・技術者による以下の講演が行われた。

- 「ディペンダビリティの追求」と「教育・ライフ・WIE etc.」～なんでもたくさん楽しみながら～（奈良先端科学技術大学院大学 情報科学領域 教授/IEEE Kansai Women in Engineering Past Chair 井上 美智子 氏）
- 瞬きから探る“脳・心・社会”（大阪大学大学院生命機能研究科 准教授 中野 珠実 氏）
- FA 業界の面白さ & ここがびっくりパナソニック（パナソニックスマートファクトリーソリューションズ株式会社 熱加工システムビジネスユニット 技術部 香西 加奈子 氏）

講演後、4名の女性企業エンジニア(NTT 荒木 章子氏、関西電力 新木 依子氏、オムロン 柳川 由紀子氏、パナソニック 辻川 美沙氏)によるポスターセッションを行い、特にこれから研究者・エンジニアを目指す女子学生から積極的に質問があり、セッションは大いに盛り上がった。



WIE シンポジウム 2018 企業エンジニアによるポスターセッション

シンポジウムの後半は、全員参加型のグループトークを実施した。「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」をテーマにグループごとに意見交換を行ったのち、各グループでの議論を参加者全体で共有した。

シンポジウムへの参加者は 49 名(うち IEEE 会員は 19 名)であった。IEEE の非会員である若い世代の参加者も多く(高校生 4 名, 学部生 1 名, 大学院生 11 名)、シンポジウムの目的の一つである若い世代の女性に科学者・技術者の魅力を伝えることができたと思われる。今年度も昨年を若干超える参加者数を数え、シンポジウムリピーターも確実に獲得している。本シンポジウムは WIE AG の年間活動の軸となるイベントとして今後も継続していく予定である。





WIE シンポジウム 2018 参加者集合

## (2) 役員会

第 1 回(1/10@京都・蔵倉)、第 2 回(5/16@大阪工業大学)、第 3 回(7/11@大阪工業大学)、第 4 回(8/22@大阪工業大学)、第 5 回(9/29@大阪工業大学)と開催し、主に運営体制の検討と、WIE シンポジウムの準備を行なった。

## (3) 協賛およびその他の活動

- 3/2 京都府中小企業技術センター「けいはんな若手技術者・研究者交流会」にて IEEE 関西支部 WIE 紹介
- 3/29 第 101 回技術講演会を TPC, LMAG と共催
- 5/14 第 102 回技術講演会を TPC, LMAG と共催
- 8/9 MIRU2018 にて WIE 女性研究者ランチミーティングを JC WIE, Sendai WIE と共催 (WIE Kansai 活動紹介)
- 10/9 IEEE EAB PEC Chair Supavadee Aramvith 先生を招いて Kansai WIE 活動についてのディスカッション
- 10/20 IEEE International Ultra Sonic Symposium (UFFC)における, WIE ネットワーキングに参加
- 11/6-9 Special WIE/WIM session with the International Conference APMC 2018 協賛
- 11/9-10 IEEE WIE International Leadership Summit 2018 Tokyo Technical Co-sponsorship (Kansai WIE Session「Essence for the Joy of Science, Technology and Your Life!」をオーガナイズ) <http://sites.ieee.org/wieils-jp-2018/pg2-08/>
- 11/12 TPC 第 105 回技術講演会を TPC と共催
- 第 10 回 IEEE キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテストを実施(全国の

YP/WIE AG との共催)

- ・ 12/4 First Workshop on Women in Software Engineering (WISE2018)を JC WIE と共催

#### 【2019 年活動計画】

2019 年は、WIE AG 設立 6 周年となる。下記施策により、活動のさらなる活発化を図る:

- ・ Kansai WIE の活動を紹介するパンフレットを作成し、これまで以上に我々の活動を広報する。
- ・ WIE 活動に賛同するメンバーを積極的に募り、運営体制を強化する。
- ・ 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。
- ・ Student Branch, YP, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西での WIE 活動を推進する。

### h. Young Professionals Affinity Group

#### 【2018 年活動報告】

2018 年は関西支部の WIE、SAC、MDC と連携し、以下の活動を行った。

- 1) WIE シンポジウム実行委員会 (5/16、7/11、8/22@大阪工業大学)
- 2) MDC/SAC/YP Joint WS を開催 (5/22、11/20)
- 3) 関西 WIE シンポジウムの共催 (9/29、大阪工業大学)  
大阪大 SB、同志社大 SB と共催
- 4) YP エッセイコンテスト共催
- 5) Tokyo YP 10 周年記念イベントに参加(12/1@明治大学)

#### 【2019 年活動計画】

2019 年も引き続き WIE、SAC、MDC と連携したイベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進していく。また、東京 YP、名古屋 YP とより密接な連携を行い、交流イベントを増やす予定である。遠隔地で開催されるイベントに参加する YP 会員には交通費などの補助を行い、より活発な交流を支援する。

IEEE 関西支部会員の増加は重要な課題であると考えており、特に YP となる大学院学生と新規若手会員の増加に向けて各 Committee と協力して対策を検討する。年2回行っている Joint WS での議論から、学生や企業の若手研究者にとって IEEE 会員となるメリットが見えにくくなっているという点が問題であると考えている。これまでの交流イベントに加えて関西 YP 独自の Award など会員にとって直接のメリットとなる活動を検討し、IEEE 会員の増加を目指す。

## 9. Kansai Chapter 活動

### a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

#### 【2018 年活動報告】

1月29日に"関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を龍谷大学大阪梅田キャンパスにて開催した。これは過去一年の主要論文誌の中から、関西に関係のある技術者による優れた論文を選定し、著者本人に講演してもらうもので、昨年は8編の論文を選定し、出席者28名での開催となった。

6月21日～22日には、国際会議 "2018 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2018)" を京都駅前の龍谷大学響都ホールにて開催した。出席者は93名、うちIEEE会員は35名であった。発表された論文数は2編のチュートリアルを除いてショートプレゼン付きポスターが24編、口頭発表が18編、うち招待論文は6編であった。

#### 【2019 年活動計画】

2019 年も技術講演会を中心に活動を展開する。特に若手研究者を主な対象とした学会や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。具体的には以下の通り計画している。

1月11日に、京都工業繊維大学にて"酸化物応用デバイス、強誘電体応用デバイス"に関する技術報告会を開催した。

また1月24日には、龍谷大学大阪梅田キャンパス セミナールームにて"第18回関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を開催する。講師には国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂く予定である。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。

さらに、日程は未定だが毎年継続して開催している国際会議"2019 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2019)" を龍谷大学アバンティ響都ホールにて開催を予定している。

例年通り、招待講演(Keynote および Invited)、一般講演およびポスター講演(ショートプレゼンテーション付き)を実施する。学生や若手研究者を中心に参加頂き、会員の活発な技術交流と教育の場を提供する。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。また、本会議に先立って、チュートリアル講演会を開催する計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

## b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

### 【2018 年活動報告】

2月27日に、ISSCC2018 報告会を IEEE SSCS Japan Chapter と共催により東京大学において開催し、15名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。

3月19日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の太田 淳 教授氏(奈良先端科学技術大学院大学)をお招きして、“Present Status and Issues in Retinal Prosthesis”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、14名であった。

4月6日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Professor Hyeon-Min Bae (Korea Advanced Institute of Science and Technology)をお招きして、“Lighting the network”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、32名であった。

4月20日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で神戸大学にて、Professor Massimo Alioto (National University of Singapore)をお招きして、“Energy-Quality Scalable Integrated Systems - Preserving Energy Downscaling at the End of Moore’s Law”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、25名であった。

5月14～15日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“LSI and Systems Workshop 2018”を東京大学で開催した。参加人数は421名であった。ポスター講演は77件あり、SSCS Kansai Chapter からは2件の Academic Research Award を表彰した。

5月17日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Professor Ali Sheikholeslami (University of Toronto)をお招きして、“Jitter in Data Converters and Wireline Circuits”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、35名であった。

6月15日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Professor Yong Ping Xu (National University of Singapore)をお招きして、“MEMS Inertial Sensors”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、24名であった。

6月27日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、Professor Asad A. Abidi (University of California, Los Angeles)をお招きして、“Simultaneous Power and Data Transfer to and from Implanted Electronics over One Pair of Coils”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、37名であった。

7月10日に、2018 Symposium on VLSI Circuits 報告会を IEEE SSCS Japan Chapter と共催で神戸大学六甲キャンパス・百年記念館ホールにて開催し、11名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。出席者は23名であった。

7月25日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Professor Jerald Yoo (National University of Singapore)をお招きして、“Design strategies for wearable sensor interface circuits - from electrodes to

signal processing”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、19名であった。

7月26日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で神戸大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Professor Jerald Yoo (National University of Singapore)をお招きして、” On-Chip Epilepsy Detection: Where Machine Learning Meets Wearable, Patient-Specific Healthcare”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、19名であった。

8月23日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Dr. Nick Van Helleputte (IMEC)をお招きして、” Sensor interface circuits”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、25名であった。

10月1日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京工業大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Professor Pietro Andreani (Lund University)をお招きして、” RF Harmonic Oscillators Integrated in Silicon Technologies”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、40名であった。

10月2日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で神戸大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Professor Pietro Andreani (Lund University)をお招きして、” Filtering  $\Delta\Sigma$ -based A/D converters”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、17名であった。

12月11日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で技術セミナーを神戸大学・梅田インテリジェントラボラトリにて開催した。講演者として、林 優一氏(奈良先端科学技術大学院大学)とVivek De 氏(米国 intel)をお招きし、ハードウェアセキュリティに関する講演会を実施した。また、同日に A-SSCC 2018 報告会を開催し、3名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。出席者は26名であった。

#### 【2019年活動計画】

2019年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。3月4日に技術講演会を開催し、ISSCC 2019にて発表を予定している日本人技術者を招いて講演会開催する予定である。さらに、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛するとともに、協賛金とAwardを出し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

## c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

### 【2018 年活動報告】

2018 年は、2 件の技術講演会を実施し、国内大会の協賛を 1 件実施した。特に 2 件の技術講演会は、多数の学生や一般の参加者があり大変好評であった。さらに活発な議論も行われ、多くの参加者の今後の研究等の活動にも役立つと考えられる。詳細は以下のとおりである。

5 月 22 日に大阪大学吹田キャンパスにおいて、Assoc. Prof. Dr. Supavadee Aramvith 氏 (チュラロンコン大学工学部電気工学科准教授・大阪大学大学院情報科学研究科特任准教授) をお招きし、“Video Analytics for Surveillance Applications”と題した技術講演会を開催した。(参加者 25 名, うち会員 5 名)

11 月 17 日～18 日に南山大学名古屋キャンパスにおいて開催された、第 61 回自動制御連合講演会 (Japan Joint Automatic Control Conference) に協賛した。

11 月 24 日に大阪大学吹田キャンパスにおいて、岸野文郎氏 (関西学院大学フェロー) をお招きし、“感性価値創造が拓く未来社会 (Towards the Future Society through Kansei Value Creation)”と題した技術講演会を開催した。(参加者 25 名, うち会員 5 名)

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催するとともに、国内大会にも協賛することで、参加者との交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努め、CASS 関西チャプターの活動をアピールすることができた。なお、実施した講演会や今後の予定については、詳細を後述の URL に掲載している。

### 【2019 年活動計画】

2019 年も 2018 年と同様に、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。例えば、2019 年 5 月に札幌で開催する国際会議 ISCAS2019 について、国内 4 チャプタで協力して開催準備を行う予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

## d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

### 【2018 年活動報告】

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動を進めた。

1 月 18 日に、広国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) にて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、大村善治 教授 (京都大学) 「地球放射線帯におけるプラズマ波動粒子相互作用」と題してご講演を頂いた。

1月20日には第1回役員会を開催して本年の活動計画を策定し、引き続き IEEE AP-S Kansai Joint Chapter Best Presentation Award 授賞式を実施し、2017年12月9日の IEEE AP-S Kansai Joint Chapter and IEEE MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会 2017において優れたポスター発表を行った2名に賞を授与した。

9月1日に、大阪電気通信大学駅前キャンパスにて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、西尾理志 助教(京都大学)より「無線通信制御への応用に向けた機械学習の基礎と実践」と題してご講演を頂いた。参加者総数は36名であった。

10月18日に、岡山大学 津島キャンパスにて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、佐藤裕之 氏(三菱電機株式会社)より「三菱電機の民生用移動体衛星通信フェーズドアレーアンテナのあゆみ」と題してご講演を頂いた。

12月8日には MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を同志社大学 京田辺キャンパスにおいて開催し、牧村英俊 氏(三菱電機株式会社)より「マルチアンテナのための広帯域減結合回路の開発」と題して、また奥村成皓 氏(古野電気株式会社)より「次世代の気象リモートセンシングに関する研究」と題して学生を対象とした実際の研究開発活動の体験をご講演いただいた。さらに、各大学、企業からのポスター展示を行い、活発な討論が行われた。

#### 【2019年活動計画】

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および (2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動し、2月に住友電気工業株式会社大阪製作所において、5月に有馬温泉において、10月に大阪大学においてそれぞれ IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を計画。さらに、次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップおよび MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

## e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

### 【2018 年活動報告】

COMS Kansai として、主に学生や若手研究者を対象とした通信技術の研究成果情報の提供を行い、技術講演会の開催ならびに学生ワークショップを実施し会員獲得のための活動を行った。

2018 年は 3 件の技術講演会の主催を行った。1 つ目の技術講演会は、4 月 4 日に同志社大学にて、IEEE Fellow である Prof. Yunghsiang S. Han (School of Electrical Engineering & Intelligentization Dongguan University of Technology, China) に“Novel FFT over Binary Finite Fields and Its Application to Reed-Solomon Erasure Codes”という演題で講演を頂いた。10 月には IEEE Communication Society Distinguished Lecturer (ComSoc DL) である Boya Distinguished Professor, Peking University, China の Prof. Lingyang Song に“Cellular Network Controlled UAV-to-X Communications for 5G and Beyond”という演題で講演を頂いた。11 月には、Tsing Hua Distinguished Professor, National Tsing Hua University, Taiwan の Prof. Chi-chao Chao に“Cellular Network Controlled UAV-to-X Communications for 5G and Beyond”という演題で講演を頂いた。同月には学生ワークショップを企画したが、申込数僅少により中止となった。企画立案は 8 月から行っており、会場選定と確保ならびに広報活動を進めたが、申込数が伸びなかった。次回以降は単なる学生ワークショップではなく、発表がはじめての学生の発表にターゲットを絞るなどして、ディスカッション重視のスタイルへ変更するなどの検討を行っている。

広報活動を活性化するため Web サイトを活用して COMS Kansai Chapter に関する情報公開を行なっている。活動計画や報告は下記の URL により提供している。

### 【2019 年活動計画】

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的として講演会を開催する。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。昨年と同様の活動を計画しており、秋頃に講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。さらに、対外発表を初めて行う学生を対象とした IEEE COMS Kansai Student Workshop を開催することを予定している。また、他の研究講演会への積極的な共催を図り、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>



## f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

### 【2018 年活動報告】

2018 年は 2 件の技術講演会の主催、1 件の技術講演会の共催、1 件の協賛を行った。技術講演会の内容は、具体的に次のとおりである。

2018 年 5 月 21 日(月)に、京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール I に於いて、『AIと自動運転』というテーマで 2 件の講演を行った。1 件目は「自動運転の現状とそのキーテクノロジー」と題して、名古屋大学の二宮 芳樹氏に完全自動運転で必要になる認識機能と、そのために必要な LiDAR と画像情報との融合、さらに認識を補完する高精度地図の役割についてご紹介頂いた。2 件目は「AI 及び GPU コンピューティングによる先進の自動運転システム」と題して、NVIDIA の馬路 徹氏に、自動運転システムに必要な大量のデータを処理する並列演算処理に関して、GPU アーキテクチャ、GPU 内蔵車載プロセッサから自動運転の AI 学習、シミュレーション、検証システムに至るまで広範にご紹介頂いた。講演会では、61 名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

2018 年 11 月 19 日(月)に、パナソニック Wonder LAB Osaka に於いて、『EVプラットフォームとバッテリー制御が切り拓く新たなモビリティ』というテーマで 2 件の講演を行った。1 件目は「EV 用リチウムイオン蓄電池の状態把握と最適制御」と題して、立命館大学の福井 正博氏にご講演頂いた。リチウムイオン蓄電池の動作原理と動向について説明して頂いたのち、特に EV 用リチウムイオン蓄電池の特徴とその制御及び状態管理において気を付けるべきことについてご紹介頂いた。2 件目は「水平分業で変わるこれからの EV 開発 ～GLM プラットフォームによるものづくりの原点回帰～」と題して、GLM 株式会社の田中 智久氏にご講演頂いた。EV メーカーである GLM 社が、これまで自動車開発で培ってきた知見を活かし行っている、技術会社の課題解決を支援するプラットフォーム事業についてご紹介頂いた。講演会では、50 名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

共催・協賛としては、2018 年 12 月 12 日(水)～14 日(金)に、大阪大学で行われた国際会議 ICIME2018(参加者 60 名)の協賛を行った。また、2018 年 6 月 4 日(月)に、立命館大学びわこ・くさつキャンパスで行われた、フォトニック集積回路に関する講演会(参加者 18 名)の共催を行った。

### 【2019 年活動計画】

2019 年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。2018 年は国外研究者の講演会の協賛を行った。2019 年も関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

## g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

【2018 年活動報告】

### Technical Meetings

#### I. 主催/共催

##### 1. 講演会（主催）マイクロ波／ミリ波センシング技術の最新動向ワークショップ

演者／演題：桐野 秀樹（株式会社WGR）／ワッフルアイアンリッジ導波路技術を用いた車載ミリ波レーダの開発

演者／演題：阪本 卓也（兵庫県立大学）／マイクロ波・ミリ波による人体センシング技術

演者／演題：角張 泰之（電子航法研究所）／到来電波測定による位置推定技術の応用

演者／演題：李 還幫（情報通信研究機構）／IR-UWB を用いた屋内測位の実践

2月17日／龍谷大学 ともいき荘／出席者数：50名(会員30名，非会員20名)

##### 2. 講演会（主催）第5世代移動通信(5G)技術の最新動向ワークショップ

演者／演題：吉野 仁（ソフトバンク株式会社）／5G 実現に向けたソフトバンクの実証試験への取り組み

演者／演題：小松崎 優治（三菱電機株式会社）／第5世代移動体通信基地局向け高効率広帯域増幅器技術

演者／演題：清水 昌彦（株式会社富士通研究所）／低消費電力ミリ波ビーム多重技術

演題：パネルセッション

5月12日／関西大学高槻ミュージズキャンパス／出席者数：73名(会員44名，非会員29名)

##### 3. 講演会（主催）メタマテリアルの新しい応用・展開ワークショップ

演者／演題：堀井 康史（関西大学）／メタマテリアル技術が生きる人の聴覚システム

演者／演題：Shulabh GUPTA (Carleton University) / mm-Wave Metasurfaces for Next Wireless Systems

演者／演題：上田 哲也（京都工芸繊維大学）／非相反メタマテリアルとアンテナ応用

演者／演題：真田 篤志（大阪大学）／メタマテリアル技術が拓く電磁波応用の最新動向

8月25日／同志社大学 今出川キャンパス／出席者数：52名(会員36名，非会員16名)

##### 4. 第11回マイクロ波英語発表会（主催）

10月13日 大阪大学 豊中キャンパス

発表件数：28件／参加者数57名（会員29名、非会員28名）

##### 5. IEEE AP-S Kansai Joint Chapter/MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会 2018（主催）

演者／演題：牧村英俊(三菱電機)／マルチアンテナのための広帯域減結合回路の開発

演者／演題：奥村成皓(古野電気)／次世代の気象リモートセンシングに関する研究

演者／演題：田中広志(パナソニック)／解析を用いた EMC 設計支援

演題：パネルセッション

演題：ポスターセッション

12月8日／同志社大学京田辺キャンパス／参加者数：97名（会員43名、非会員54名）

6. 講演会（主催）WPTに関するDML講演会とテラヘルツ技術に関するワークショップ  
演者／演題：篠原 真毅（京都大学）／電波によるワイヤレス給電の最新の研究開発現状とその応用

演者／演題：永妻 忠夫（大阪大学）／集積回路技術がもたらすテラヘルツ応用の新潮流

演者／演題：佐藤 春実（神戸大学）／テラヘルツ分光の高分子材料への応用

演者／演題：川瀬 晃道（名古屋大学）／高DR波長可変テラヘルツ光源の開発と応用

12月15日／京都工芸繊維大学 松ヶ崎／参加者数：38名（会員25名、非会員13名）

## II. 協賛

1. 電子情報通信学会 マイクロ波研究会

2018年1月～2018年12月の期間中に10回開催

2. URSI-C小委員会 第23期第11回公開研究会

テーマ：将来に向けたアンテナ・伝搬・システム・信号処理技術の最新動向

2018年3月22日 東京電機大学 東京千住キャンパス

3. 2018 Thailand-Japan Microwave (TJMW2018)

2018年6月27日～6月29日

King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang（バンコク，タイ）

4. 第9回日本電磁波エネルギー応用学会講演会

2018年5月25日 上智大学

5. URSI-C小委員会 第24期第2回公開研究会

テーマ：OAM無線伝送

2018年10月12日 摂南大学 寝屋川キャンパス

6. 2018 Asia-Pacific Microwave Conference

2018年11月6日～11月9日 京都国際会館

7. 2018 Microwave Workshops and Exhibition

2018年11月28日～11月30日 パシフィコ横浜

## **Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings**

1. 役員会

2018年1月20日／龍谷大学ともいき荘 出席者数：7名

2018年2月17日／龍谷大学ともいき荘 出席者数：8名

2018年5月12日／関西大学ミューズキャンパス 出席者数：8名

2018年10月13日／大阪大学豊中キャンパス 出席者数：9名

2018年12月8日／同志社大学京田辺キャンパス 出席者数：10名

2. 2018年IEEE 関西支部総会

2018年2月28日／関西大学 梅田キャンパス Chapterからの出席者1名

### 3. 2018 年 IEEE Chapter Operation Committee

2018 年 6 月 25 日 機械振興会館 Chapter からの出席者数：1 名

2018 年 11 月 15 日 機械振興会館 Chapter からの出席者数：1 名

#### 【2019 年活動計画】

2019 年は、これまでの戦略領域について一部見直しを行うが、従来通り技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行うとともに、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援も、引き続き両 Chapter と共同で行う。また、2014 年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

## h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

### 【2018 年活動報告】

Technical Meeting としては、1 月 25 日(木)に、姫路・西はりま地場産業センターにおいて、IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、野田進教授(京大)から「フォトニック結晶の現状と将来展望」という題目でご講演いただいた。参加者は 70 名と盛会であった。これは、翌 19 日(木)も含む 2 日間にわたって同会場において開催された、電子情報通信学会 OPE, LQE, PN, MWP, EST, EMT, IEE-EMT 研究会との併催である。

3 月 30 日(金)には、京都工繊大で開催された KIT Nano-photonics Special Lecture & Young Researchers' Meeting に協賛、Willem L. Vos 教授(オランダ Twente 大)、石崎賢司助教(京大)、田尻武義氏(東大)、高橋駿助教(京都工繊大)の 4 名をお招きし、ナノフォトニクス関連の最新動向についてご講演いただいた。参加者は 16 名であった。

9 月 29 日(土)には、京都工繊大において、「第4回 IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。7 名の学生による英語での発表、および「可視光半導体レーザーの新しいアプリケーション」と題して八木哲哉氏(三菱電機)による招待講演 1 件があった。優れた発表に対して Best Student Presentation Award を1件授与した。参加者は 23 名であった。

10 月 31 日(水)には、京都工繊大で開催された「電子システム工学シンポジウム」を京都工繊大と共催した。岩本敏准教授(東大)から「トポロジカルフォトニクス」と題した特別講義、および大黒弘樹氏(日亜化学)から「III-V 族系高輝度 LED 開発の変遷と応用商品への展開について」と題した招待講演があった。参加者は 69 名と盛会であった。

11 月 22 日(木)には、ハービスプラザ(大阪)で開催された電子情報通信学会集積光デバイスと応用技術研究会に協賛、浅野卓准教授(京大)による「機械学習を利用したフォトニック結晶共振器の設計」ほか6件の招待講演があった。参加者は 50 名と盛会であった。

12 月 6 日(木)～7 日(金)には、慶応大(東京)で開催された電子情報通信学会集積 OPE/LQE/SiPH 合同研究会に協賛、第 26 回半導体レーザー国際会議(Santa Fe)の注目講演から 11 件をピックアップした招待講演ほか、計43件の講演があった。参加者は 82 名と盛会であった。

Administrative Meeting としては、1 月に姫路市、7 月に関西大、9 月に京都工繊大で役員会を開催、年間活動方針、Technical Meeting の企画、運営について協議した。

### 【2019 年活動計画】

2019 年も、技術講演会の開催を中心に活動を展開する。1 月 17 日には、例年通り電子情報通信学会の LQE/OPE/EMT/EST/MWP/PN/PEM 合同研究会と併催の形で特別講演を主催するほか、年間を通じてさらに 1~2 件の技術講演会やワークショップを企画する予定である。好評であった学生英語発表会も開催する予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

## i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

### 【2018年活動報告】

Distinguished Lecturer 講演会と Distinguished Industry Speaker 講演会を含む以下の4件の講演会を主催した。

1. Fellow 記念講演会 (主催)  
演 者：澤田 宏 (NTT)  
演 題：ブラインド音源分離の研究  
年月日／会場：2018年3月19日 (月) 石垣市ホテルミヤヒラ  
出席者数：133名
2. 講演会 (主催)  
演 者：Assoc. Prof. Supavadee Aramvith (Chulalongkorn University, Thailand)  
演 題：Video Analytics for Surveillance Applications  
年月日／会場：2018年5月30日 (水) 関西大学  
参加者数：38名
3. Distinguished Lecturer 講演会 (主催)  
演 者：Prof. Bhiksha Raj (Carnegie Mellon University, USA)  
演 題：Generating adversarial examples with a neural network  
年月日／会場：2018年6月8日 (金) 京都大学  
出席者数：41名
4. Distinguished Industry Speaker 講演会 (主催)  
演 者：Dr. Michael Picheny (IBM T. J. Watson Research Center)  
演 題：Speech Recognition: What's Left?  
年月日／会場：2018年10月15日 (月) 京都大学  
出席者数：42名
5. 講演会 (主催)  
演 者：Prof. Graham Wilcock (University of Helsinki)  
演 題：Talking Robots and Wikipedia  
年月日／会場：2018年11月29日 (木) 京都大学  
参加者数：32名
6. Fellow 記念講演会 (主催)  
演 者：河原 達也 (京都大学)  
演 題：音声認識の方法論の変遷と展望～Acoustic-to-Word モデルを中心に～  
年月日／会場：2018年12月10日 (月) 早稲田大学  
出席者数：115名

以下の Technical Meeting を共催した。

1. 信号処理シンポジウム

2018年11月6日～8日

東京電機大学

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award および IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award を実施し、各3名を選定・表彰した。また、一昨年度より新たな賞として IEEE SPS Japan Best Paper Award を実施し、受賞者3名を選定・表彰した。

Distinguished Lecturer 講演会に加えて、最近設けられた Distinguished Industry Speaker の講演会を開催することができた。

#### 【2019年活動計画】

引き続き、講演会を開催し、会員を中心とする国内外の学术交流を図る。

IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で論文賞および学生賞の表彰を実施し、若手の研究を奨励するとともに、会員増加に努める。

これらの活動については下記 Web サイトで公開している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

## j. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

### 【2018 年活動報告】

#### Technical Meetings

主催/共催

研究会(主催)

年月日/会場:2018年1月22日/海峡メッセ下関 出席者数:21名

内容:「コンシューマエレクトロニクス及び一般」をテーマとした研究会を開催した。発表件数は14件。山口大、名工大、龍谷大等からの発表があった。

国際会議(主催) IEEE 7th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2018)

年月日/会場:2018年10月9日~10月12日/奈良ロイヤルホテル

出席者数:450名(20か国より)

内容:CE SocietyのVice President・長谷教授が設立した国際会議。毎年10月にIEEE主催の国際会議として日本で開催している。GCCE 2018の運営主体はCE-08 West Japan Chapterで、主たる運営はその会員で行なった。発表件数は310件。本チャプターから若手論文賞(3件)の表彰を行った。

Inter BEE 2018 テクニカルセッション講演(共催)

年月日/会場:2018年11月16日/幕張メッセ

セッション司会:長谷 智弘教授(龍谷大学)

セッション題目:「画像と音響の国際標準化動向」

演者:浅井 光太郎(三菱電機株式会社 通信システム事業本部 技師長)

演題:画像・マルチメディアの国際標準化動向

演者:杉山 昭彦(日本電気株式会社 データサイエンス研究所・主席研究員)

演題:音響・音声信号の国際標準化動向

国際会議(共催) 2018 TRON Symposium

年月日/会場:2018年12月12日~12月14日/東京ミッドタウン

出席者数:100名 (IEEE CE Societyが共催)

CE Societyの共催(Technical Sponsor)により、国際会議2018 TRON Symposiumを開催した。12月12日~14日に同場所で開催のTRONSHOW 2018(6,000名参加)の一環として開催。長谷 智弘教授(龍谷大学)がVice-Chairとして運営参加。

#### Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

チャプター役員会

年月日/会場:2018年1月22日/海峡メッセ下関 出席者数:3名

2018年の運営体制に関して打合せを実施した。

チャプター役員会

年月日/会場:2018年10月9日/奈良ロイヤルホテル 出席者数:6名

GCCE 2018の準備状況を確認し、今後の進め方に関して打合せを実施した。



チャプター役員会

年月日／会場:2018年11月16日／幕張メッセ 出席者数:4名

本年の総括と来年の計画に関して打合せを実施した。

**【2019年活動計画】**

**LifeTech 2019:**

2019年3月12～14日に大阪千里ライフサイエンスセンターで国際会議 LifeTech 2019を開催する。この国際学会は、弊 Chapter の長谷智弘教授が創設した IEEE 主催のライフサイエンスに関する新規国際会議。IEEE Life Sciences Technical Community (IEEE LSTC)が主催で、IEEE LSTC には IEEE の5Society (Circuits and Systems Society, Consumer Electronics Society, Control Systems Society, Signal Processing Society, Engineering in Medicine and Biology Society) が参加。LifeTech 2019 では若手論文賞の表彰を予定。

**GCCE 2019:**

2019年10月15～18日に大阪千里ライフサイエンスセンターで国際会議 GCCE 2019を開催する。GCCE 2019 では若手論文賞の表彰に加え、Young Profession イベントを通じて新規若手会員の獲得に努める。

**2019 TRON Symposium:**

12月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2019 TRON Symposium (CE Society の共催 (Technical Sponsor))を開催する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

## k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

### 【2018 年活動報告】

#### Technical Meetings

##### I. 共催行事

1. International Workshop on "Recent Topics in Control" (2018/3/07)

2. 講演会 (2018/3/15)

講演: Sliding Mode Control Strategies for Spacecraft Rendezvous Maneuvers

講師: Elisabetta Punta 博士 (イタリア CNR-IEIIT)

講演: "Flyable" guidance and control algorithms for Rendezvous Maneuver: APF and Obstacle Avoidance

講師: Elisa Capello 博士 (イタリア トリノ工科大学 / CNR-IEIIT)

3. 講演会 (2018/7/10)

講演: Computational and optimization methods for quadratic inverse eigenvalue problems arising in mechanical vibration and structural dynamics: Linking mathematics to industry

講師: Biswa Nath Datta 教授 (アメリカ・Northern Illinois University)

##### II 協賛事業

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2018/1/12)

2. 計測自動制御学会 第5回制御部門マルチシンポジウム (2018/3/8-11)

3. ISCIE・SICE チュートリアル講座 2018 (2018/6/30)

4. The 50th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (2018/11/1-2)

5. 第61回自動制御連合講演会 (2018/11/17-18)

6. システム制御情報学会セミナー「IoT・ビッグデータ実践の勘所」(2018/12/5)

#### Non-Technical Meetings

##### Chapter 役員会

1. 第1回役員会 (2018/3/10)

2. 第2回役員会 (2018/8/12)

3. 第3回役員会 (2018/9/13)

### 【2019 年活動計画】

2018 年は、主催・共催行事の開催を検討する他、例年通り下記の学会に協賛をする予定。

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2019/1/21)

2. 計測自動制御学会 第5回制御部門マルチシンポジウム (2019/3/6-9)

3. ISCIE・SICE チュートリアル講座

4. The 51th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications

5. 第62回自動制御連合講演会

6. システム制御情報学会セミナー

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

【2018 年活動報告】

**Technical Meetings**

I. 主催/共催

1. 講演会 (Industrial Application Society, Power Electronics Society と合同主催)

演 者: 赤木 泰文 氏 (東京工業大学)

演 題: パワーエレクトロニクスと高圧モータドライブの技術動向

年月日/会場: 2018 年 1 月 27 日 ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター

出席者数: 150 名

2. 電気学会 半導体電力変換・モータドライブ合同研究会 (共催)

年月日/会場: 2018 年 1 月 27, 28 日 ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター

出席者数: 150 名

3. パワーエレクトロニクス学会 第 222 回研究会 (共催)

年月日/会場: 2018 年 4 月 14 日 中央電気倶楽部 511 室

発表件数: 4 件

出席者数: 77 名

4. パワーエレクトロニクス学会 第 223 回研究会 (共催)

年月日/会場: 2018 年 6 月 23 日 同志社大学

発表件数: 5 件

出席者数: 72 名

5. パワーエレクトロニクス学会 第 224 回研究会 (共催)

年月日/会場: 2018 年 8 月 4 日 名古屋工業大学

発表件数: 5 件

出席者数: 46 名

6. パワーエレクトロニクス学会 第 225 回研究会 (共催)

年月日/会場: 2018 年 10 月 20 日 ダイキン工業 TIC

発表件数: 5 件

出席者数: 54 名

7. パワーエレクトロニクス学会 第 226 回研究会 (共催)

年月日/会場: 2018 年 12 月 15 日 神戸大学

発表件数:41 件

出席者数:145 名

## II. 協賛

- 1.スマートエネルギーセミナー「統合化が進む分散エネルギービジネス～ 地産地消、VPP、ローカル VPP、ブロックチェーン、EV、一括受電、住宅 ～分散エネルギーシステムで変わるインフラ～ 地産地消、ZEH、VPP、防災、IoT、オフグリッド、海外事情 ～」(主催:福岡スマートハウスコンソーシアム, 横浜スマートコミュニティ, 大阪工業大学, 芝浦工業大学)

年月日/会場:2018年2月15日 東京ビッグサイト 会議棟 703 会議室

発表件数:18 件

出席者数:214 名

2. 電気学会 産業応用フォーラム「統合化が進む分散エネルギービジネスとその技術」(主催:電気学会産業応用部門 家電・民生技術委員会, 新電力社会で変革を迎える地域と家庭のスマートエネルギーシステム技術協同研究委員会)

年月日/会場:2018年2月23日 大阪工業大学梅田キャンパス

発表件数:12 件

出席者数:53 名

3. 電気学会 産業応用部門大会

(主催:電気学会)

年月日/会場:2018年8月28日～2018年8月30日/横浜国立大学

発表件数:495 件

出席者数:1277 名

4. Smart Energy Japan West 2018 スマートエネルギーセミナー

(主催:大阪工業大学/芝浦工業大学/福岡スマートハウスコンソーシアム /横浜スマートコミュニティ/電気学会 ローカル VPP を目指す分散エネルギー技術調査委員会)

年月日/会場:2018年8月28日 マイドームおおさか 8階 第1・2会議室

発表件数:12 件

出席者数:202 名

### **Non-technical Meetings**

1. 第1回役員会

年月日/会場:2018年4月14日/ 中央電気倶楽部 511 室

出席者数: 4 名

2. 第2回役員会

年月日/会場:2018年12月15日/ 神戸大学 深江キャンパス

出席者数: 2 名

## **Chapter 支援費利用事業**

1. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award (2018年4月14日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2017 年に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から、35 歳以下の若手によるもの 1 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し、副賞として図書カード 1 万円分を授与した。

主旨: (B)若手獲得・育成の企画、利用支援費 1 万円

内訳:副賞(1 万円)／件×1 件

2. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞 (2018年12月15日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催し 12 月に開催したパワーエレクトロニクス学会定例研究会～若手のための研究発表会～において、発表された論文の中から、35 歳以下の若手によるもの 2 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞を授与し、副賞として図書カード 1 万円分を授与した。

主旨: (B)若手獲得・育成の企画、利用支援費 2 万円

内訳:副賞(1 万円)／件×2 件

### **【2019 年活動計画】**

2019 年は、1 月 25 日に IEEE IES Japan Joint Chapter, IEEE IAS Japan Chapter, PELS Japan Chapter 合同主催で、講演会(講演者: 河村篤男 教授, 横浜国立大学)の開催を予定している。また、パワーエレクトロニクス学会と共催で、4 月、6 月、8 月、10 月、12 月に定例研究会の開催が予定されている。

また、例年通り以下の表彰を行う計画である。

1. 2019 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12 月の研究会は対象から除外する)の満 35 歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文 1 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与する。

2. 2019 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して 12 月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で 30 件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表 2 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与する。

これらの活動については下記の Web サイトで広報を行う。

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>



する。具体的には、10-12月に基調講演と学生のポスター発表会をメインとした、第5回関西四国磁性研究会を開催する予定である。同会では、学生に奨励賞を授与する予定である。これ以外に、DL講演会、関西・四国地区での研究会の主催も企画する。また、他学協会の研究会などを共催・協賛する予定である。特にIEEEと関わりがある日本磁気学会の研究会との共催を検討している。併せて会員への情報提供のため、HPの開設、充実を図る。

URL <http://ieemag.wixsite.com/kansai-shikoku>

## V. 関西支部会員数

### 1. 会員数推移状況（12月末調査時点）

表 1. 年ごとの会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Total
2009	0	33	50	6	94	45	1,536	105	216	129	2,214
2010	0	36	50	7	102	45	1,561	89	204	162	2,256
2011	0	40	48	9	110	50	1,559	105	233	159	2,313
2012	0	44	38	11	118	59	1,587	82	317	78	2,334
2013	1	45	35	14	113	64	1,604	62	288	129	2,355
2014	1	46	31	20	116	69	1,594	60	271	99	2,307
2015	1	45	34	18	127	75	1,556	55	255	93	2,259
2016	1	48	30	23	126	82	1,547	61	258	82	2,258
2017	1	48	28	24	124	84	1,520	61	290	52	2,232
2018	1	41	27	23	126	88	1,539	59	266	49	2,219

**Grade code** H: Honorary member, LF: Life Fellow, F: Fellow,  
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,  
 LM: Life Member, M: Member, AM: Associate Member,  
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

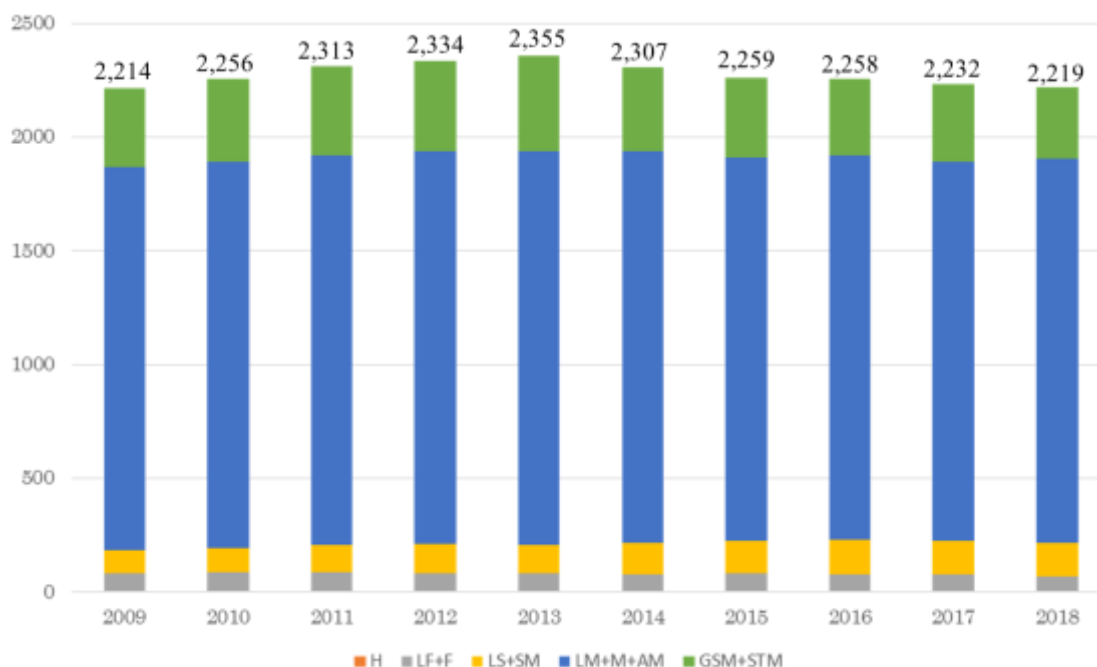


図 3. 会員区分の推移



## 2. ソサイエティ別会員数

Society Code	Society Chapter Name	Established Year	関西支部メンバー数	Chapter 構成	○ 幹事Chapter									
					札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡	
SP-01	Signal Processing Society Tokyo Joint Chapter	1982		東京Joint	○		○	○	○			○	○	○
	Signal Processing Society Sendai Chapter	2013		仙台単独		○								
	Signal Processing Society Kansai Chapter	2007	136	関西単独						○				
BT-02	Tokyo/Japan Sections Broadcast Technology Society Joint Chapter	1983	4	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AP-03	Anntenas and Propagation Society Tokyo Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○						
	Anntenas and Propagation Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					○					
	Anntenas and Propagation Society Kansai Chapter	2006	72	関西Joint						○	○	○		
	Anntenas and Propagation Society Fukuoka Chapter	2005		福岡単独										○
CAS-04	Circuits and Systems Society Japan Joint Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○	○				○	
	Circuits and Systems Society Kansai Chapter	2002	126	関西単独						○				
	Circuits and Systems Society Shikoku Chapter	2006		四国単独								○		
	Circuits and Systems Society Fukuoka Chapter	2001		福岡単独										○
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	1981	30	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VT-06	Vehicular Technology Society Tokyo Chapter	1979	38	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
R-07	Reliability Society Japan Chapter	1983	11	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CE-08	Consumer Electronics Society East Joint Japan Chapter	1983		東京Joint	○	○	○	○	○					
	Consumer Electronics Society West Joint Chapter	2008	23	関西Joint						○	○	○	○	○
IM-09	Instrumentation and Measurement Tokyo/Japan Sections Joint Chapter	1973	11	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	1991	12	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	2004	91	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	1981	39	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Chapter	1981	58	関西Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TEM-14	Technology and Engineering Management Society Japan Chapter	1997	9	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Electron Devices Society Kansai Chapter	2000	171	関西単独						○				
C-16	Computer Society Japan Chapter	1967		東京Joint	○	○	○	○	○				○	
	Computer Society Kansai Chapter	2006	362	関西単独						○				
	Computer Society Fukuoka Chapter	2004		福岡単独										○
MIT-17	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	1958		東京Joint	○	○	○	○	○			○	○	○
	Microwave Theory and Techniques Society Nagoya Chapter	2010		名古屋単独					○					
	Microwave Theory and Techniques Society Kansai Chapter	2006	138	関西単独						○				
EMB-18	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	1970	123	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	West Japan Chapter of Engineering in Medicine and Biology	2007		福岡Joint								○	○	○
COM-19	Communications Society Japan Chapter	1973		東京Joint	○		○	○	○			○	○	○
	Communications Society Sendai Section Chapter	2012		仙台単独		○								
	Communications Society Kansai Chapter	2006	179	関西単独							○			
UFFC-20	Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control All Japan Joint Chapter	1986	41	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CPMT-21	Components, Packaging and Manufacturing Technology Society Japan Chapter	1994	32	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	1996	9	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CS-23	Control Systems Society Japan Chapter	1981		東京Joint	○	○	○	○	○			○	○	○
	Control Systems Society Kansai Chapter	2011	86	関西単独							○			
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Joint Chapter	1990	160	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
E-25	Education Society Japan Chapter	1981	15	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PC-26	Professional Communication Society Japan Chapter	2006	1	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Joint Chapter	1980	23	東京Joint	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	2001		仙台単独		○								
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	1974	99	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Systems, Man, and Cybernetics Society Hiroshima Chapter	2005		広島単独										○
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society All Japan Joint Chapter	1982	16	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SIT-30	Society on Social Implications of Technology Japan Chapter	1983	2	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PE-31	Power & Energy Society Japan Joint Chapter	1964	51	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DEI-32	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	1986	13	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MAG-33	Magnetics Society Tokyo Chapter	1977		東京Joint				○						○
	Magnetics Society Sendai/Sapporo Joint Chapter	2005		仙台Joint	○	○								
	Magnetics Society Shin-etsu Chapter	2015		信越単独				○						
	Magnetics Society of Japan Nagoya Chapter	2008		名古屋単独					○					
	Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter	2015	35	関西Joint						○	○			
IA-34	Industry Applications Society Japan Chapter	1973	52	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PEL-35	Power Electronics Society Japan Joint Chapter	1990	77	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Power Electronics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独										○
PHO-36	Photonics Society Japan Chapter	1986		東京Joint	○	○	○	○	○			○	○	
	Photonics Society Kansai Chapter	2007	72	関西単独						○				
	Photonics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独										○
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	1998		東京Joint	○	○	○	○	○			○	○	○
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	2001	116	関西単独						○				
ITS-38	Intelligent Transportation Systems Society Tokyo Chapter	2014	19	東京単独				○						
	Intelligent Transportation Systems Society Nagoya Chapter	2013		名古屋単独					○					
PSE-43	Product Safety Engineering Society		3											
CEDA-44	Council on Electronics Design Automation All Japan Joint Chapter	2014	2	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
				関西単独								他支部Joint		
			#	他支部Jointで監視支部会員数が50名を超えるもの										

「◎」幹事 Section(活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

## VI. 2018年 会計報告

収入の部	予算値(単位：円)	実績値(単位：円)	(CB口座に振り込まれた日のレートで計算)
◆IEEE Entity間勘定	1,843,420	1,780,288	収入内容
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,678,655	1,497,825	\$13816.30 (Chapter Rebate&Bonus: \$ 3,310, AG Rebate&Bonus: \$ 590 含む)
▲Chapter Rebate支払	▲ 364,100	▲ 358,837	48,940 LMAG Reimbursement(52,940-4,000(手数料)) : 11/8振込 ( \$ 200X13)X1.1+ \$ 75X6= \$ 3,310 (6Chapter:\$75)
▲Affinity Group Rebate支払	▲ 89,100	▲ 63,962	( \$ 200X2)X1.1+\$75X2= \$ 590 :LMAG,WIE (ActivityBonus(\$75X2)=\$150) (YP=\$0)
・ SB Rebate	95,480	57,810	\$514.0 (CB入金 : 11/30) (4大学:同大(\$70:¥7,873)、阪大 (\$254:¥28,567)、立命館(\$120:¥13,497)、兵庫県立 (\$70:¥7,873))
▲SB Rebate支払	▲ 95,480	▲ 57,810	
Section Rebate 小計	1,225,455	1,123,966	
・ Section Assessment 2018前後期	4,099,728	4,162,188	前期 : \$38,581.65 (国内:¥4,162,188 at 4/25)
▲Japan Council拠出金+手数料	▲ 3,566,763	▲ 3,621,104	111,804 後期 : \$1,007.06 (国内 : ¥111,804 at 10/25) 前期 : ・ JCへ:¥3,619,172(振込5/12) ・ 被仕向送金手数料:¥1,500 ・ 振込み手数料:¥432
Section Assesment 小計	532,965	555,619	▲ 97,269 後期 : ・ JCへ:¥96,837(振込 11/15 ) ・ 振込み手数料:¥432 13%還元残高
・ LMAG Fund	11,000	0	
・ WIE Fund	44,000	44,188	\$400 (R10 WIE Support Fund) (CB:1/11)
・ YP Fund	30,000	0	
AG Fund 小計	85,000	44,188	
R10 SYWL2018 Congress Support	0	56,515	R10 SYWL2018 学生1名参加 (\$500) (11/9CB)
計画外	0	0	R10 Section Incentives for 2018 Activities (\$1,500) (2019 CB)
◆Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	360,000	172,000	
・ Section支援(WIE)	100,000	72,000	
・ Section支援(SB)	130,000	0	2019年振込予定
・ Section支援(SB)	30,000	0	(ブレインストーミングコンテスト(9/30予定) →台風のため中止)
・ Section支援	100,000	100,000	第100回記念技術講演会の半額支援 (振込 : 4/27)
小計	2,203,420	1,952,288	
◆2017年からの繰越金	2,913,616	2,913,616	国内銀行口座(MTUFJ) : ¥1,594,762 CB口座 : \$13,149.42
合計	5,117,036	4,865,904	

支出の部	予算値(単位：円)	実績値(単位：円)	
◆会合・AWARD・活動費	2,513,500	1,468,004	支出内容
・関西支部活性化費	500,000	112,354	若手奨励賞(IEEE GCCE2017) R10 SYWL Congress@Baliへの学生派遣費用
・Chapter活動強化費	0	0	
・総会開催費	450,000	436,868	・会場費(関大梅田キャンパス) ・懇親会費(ケータリング) ・資料代 ・学生交通費 ・関西支部メダル発送(Senior 4名分)
▲懇親会費徴収	▲ 200,000	▲ 175,000	総会懇親会(5,000×35名)
・講演会	50,000	26,501	第101-105回技術講演会会場費、謝礼(103回)、懇親会費
・理事会費	300,000	115,404	第1-6回会場費、懇親会費
・Committee会合費	250,000	150,462	・MDC/SAC/YP合同会議 ・関西支部COCミーティング 会場費
・総会メダル、研究奨励賞	333,500	274,840	・学生研究奨励賞(9名) ・関西支部メダル(10個)
・Student Branch支援費	400,000	279,994	・SB Chairミーティング ・SB研究交流会 ・英語プレゼン大会支援費
・LMAG支援費	150,000	49,480	・名古屋LMAG参加 ・第15回現地講演会 ・SB英語プレゼン大会LMAG賞
・WIE支援費	200,000	194,941	・IEEE WIE ILS@Tokyo参加 ・Kansai WIE Symposium支援費
・YP支援費	80,000	2,160	YP WorkShop等
・R10 Meeting派遣支援	0	0	
◆事務経費	42,000	0	
・外部監査費	0	0	外部監査不要
・事務用品費	2,000	0	ファイル等
・旅費	20,000	0	各種旅費支援
・通信費	20,000	0	郵送料、宅急便等
◆雑費	25,000	14,514	
・為替手数料、振込手数料、他	25,000	14,514	被仕向送金手数料 (Section Assessment, Section Rebate) 振込手数料 (Chapter Rebate, SB Rebate等)
小計	2,580,500	1,482,518	
◆2019年への繰越	2,536,536	3,383,386	国内銀行口座(三菱UFJ)：¥1,778,717 CB口座：\$15,665.91
合計	5,117,036	4,865,904	

## VII. 2019年 予算

収入の部

◆IEEE Entity間勘定	1,929,007	内容
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,543,993	・ 2018年実績から : \$ 14,036.3 (Chapter Rebate&Bonus: \$ 3,310, AG Rebate&Bonus: \$ 810 含む)
▲Chapter Rebate支払	▲ 364,100	( \$ 200X13)X1.1+ \$ 75X6= \$ 3310
▲Affinity Group Rebate支払	▲ 89,100	( \$ 200X3)X1.1+ \$ 75X2= \$ 810
・ SB Rebate	99,000	\$900 (2018年から算出)
▲SB Rebate支払	▲ 99,000	
・ Section Rebate 小計	1,090,793	
・ Section Assessment 2018前後期	4,354,758	2018年実績から 前期:\$38,581.65,後期:\$1,007.06
▲Japan Council拠出金+手数料	▲ 3,701,544	Assesment入金85% (2019年から15%はSectionに還元)
・ Section Assesment小計	653,214	2019年から15%還元残高
・ LMAG Fund	10,000	Fund関連
・ WIE Fund		
・ YP Fund	10,000	Fund関連
・ AG Fund 小計	20,000	
その他	165,000	R10 Section Incentives for 2018 Activities (\$1,500) (2018分)
◆Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	596,000	
・ Section支援(SB) (2018年分)	88,000	英語プレゼン大会(2018年)の半額支援
・ Section支援(WIE)	100,000	Kansai WIE Symposiumの半額支援
・ Section支援(SB)	130,000	英語プレゼン大会の半額支援
・ Section支援(SB)	30,000	ブレーストーミングコンテスト大会の半額支援
・ Section支援	100,000	Friend Award 授賞式 (会場費、交通費、懇親会費) の半額支援
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	148,000	2020年2月実施 ・ YP賞メダル (¥12,000/個、3個) ・ 関西支部メダル (¥10,000/個、6個) ・ 学生研究奨励賞 (¥20,000/人、10人) の半額支援
小計	2,525,007	
◆2018年からの繰越金	3,383,386	
合計	5,908,393	

支出の部

◆会合・AWARD・活動 費	2,567,000	内容
・関西支部活性化費	610,000	・MAW(仙台)のAG派遣費用支援 ¥210,000 (各AG1名) ・Japan SYWL への学生派遣 (2名予定) ¥100,000 ・新規活性化活動 ¥300,000
・総会開催費	500,000	会場費、資料代、懇親会費など
▲懇親会費徴収	▲200,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分) (5,000円×40名想定)
Friend Award 授賞式	200,000	会場費、交通費、懇親会費 (6社+IEEE本部関係者)
・講演会	50,000	TPCの講演者への謝礼:5名分 会場費 (技術講演会の開催回数5回を計画:第106回~第110回)
・理事会費	250,000	会場代、弁当代 (5回を予定)
・Committee会合費	200,000	各WS、2回、SAC等
・総会メダル、研究奨励賞	192,000	学生研究奨励賞(¥100,000/5名分):2019年総会用 YP賞メダル(¥42,000/3個分):2020年総会用 関西支部メダル(¥50,000/5個分):2020年総会用
・Student Branch支援費	405,000	SB Chairミーティング:¥25,000、 研究交流会:¥100,000 英語プレゼン大会:¥250,000 プレンストーミングコンテスト:¥30,000
・LMAG支援費	150,000	技術講演会開催費および準備費用、 LMAGサロン、LMAG賞 (年初AG Rebate,Fund除く)
・WIE支援費	200,000	WIE Symposium、パンフレット作成 (年初AG Rebate,Fund除く)
・YP支援費	10,000	YP WS (年初AG Rebate,Fund除く)
◆事務経費	22,000	
・外部監査費	0	外部監査不要
・事務用品費	2,000	ファイル等
・旅費	10,000	各種旅費支援
・通信費	10,000	郵送費、宅急便等
◆雑費	25,000	
・為替手数料、振込手数料、他	25,000	為替手数料、振込手数料 (理事会会場費振込、CB口座より送金、 AG等への支援費振込み 他)
小計	2,614,000	
◆2020年への繰越	3,294,393	
合計	5,908,393	

## VIII. 受賞者

### IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者 (5名)

山田 晃大	京都工芸繊維大学
田中 悠貴	京都大学
尹 博	京都大学
神矢 翔太郎	京都大学
小林 真	大阪大学

### IEEE 関西支部 メダル受賞者 (新 Senior member) (9名)

松岡 俊匡	大阪大学
山本 幹	関西大学
横小路 泰義	神戸大学
福本 幸弘	九州工業大学
木下 慶介	日本電信電話
玉井 伸三	東芝三菱電機産業システム
Wannous Muhammad	神戸情報大学院大学
市川 治	滋賀大学
緒方 広明	京都大学

### IEEE 関西支部 新 Fellow (1名)

馬場 吉弘	同志社大学
-------	-------

### 2018 Supporting Friend Award of IEEE MGA 受賞企業 (6社)

日本電信電話  
関西電力  
シャープ  
パナソニック  
住友電気工業  
三菱電機

(敬称略)

以降、参考情報

## **I. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS**

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

### **ARTICLE I --- Name and Territory**

#### Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

#### Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

### **ARTICLE II --- Officers**

#### Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

#### Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

#### Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

#### Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

### **ARTICLE III --- Standing Committee**

#### Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

#### Section 2



The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

#### Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

#### Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

### **ARTICLE IV --- Management**

#### Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,  
representatives of Chapters,  
representatives of Affinity Groups,  
such other members appointed by the Section Executive Committee,  
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

#### Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

#### Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

#### Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

#### Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

### **ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers**

#### Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

#### Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

#### Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

#### Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

#### Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

### **ARTICLE VI --- Business Meeting**

#### Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

### **ARTICLE VII --- Finances**

#### Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

#### Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

#### Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

### **ARTICLE VIII --- Amendments**

#### Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive

Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

#### Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

## IEEE 関西支部における MOU 締結判断手続きについて

IEEE Kansai Section COC

Chapter が IEEE 以外の団体が企画する事業に共催または協賛する場合、所属する Japan Council(JC)または Section の承認が必要(IEEE Policies)。この承認には、Chapter が IEEE Conference を共催する際に取り交わす MOU (Memorandum of Understanding)も含まれる。これは、IEEE Policy の 10.1.4 項の規定による。そこで、IEEE 東京支部の MOU 締結判断手続きを参考に、IEEE 関西支部における MOU 締結判断手続きについて、以下のとおり提案する。

1. 【審査依頼】提案元 Chapter から Kansai Section へ承認依頼を提出。(提出時点で、承認関連書類が Kansai Section COC へ(自動)転送されるよう運用)
1. 【Kansai Section COC における承認審査】承認審査を Kansai Section COC で実施し、Kansai Section 理事会へ審査結果を答申。審査は以下の点に留意する。
  - ① Financial Co-Sponsorship (FCS)と Technical Co-Sponsor (TCS)の別。
  - ① Sponsorship のための必要経費。
  - ② (FCS の場合)損出・余剰金発生時の処理など財務処理の妥当性。  
(提案元 Chapter 側で事前に調整の上、申請頂くのが原則)
2. 【Joint Section における承認審査】上記 2 において、複数 Section による Joint Chapter からの依頼の場合には、Kansai Section COC から関係各 Section へ審査を依頼。
  - ① FCS については、関係全 Section からの承認回答をもって承認とする。
  - ② TCS については、あらかじめ設定した期限までに非承認回答がなければ承認として処理する。
3. 【COC からの答申に基づく Kansai Section の処理】答申内容に基づき、理事会で審議を行い、結果を事務局から Chapter に回答。
  - ① FCS の場合は、Kansai Section COC 発議により Kansai Section 理事会でメール審議を行い、承認後に Kansai Section Secretary が Chapter に結果を通知。
  - ② TCS の場合は、Kansai Section Secretary が承認して Chapter に通知、後日理事会で報告。

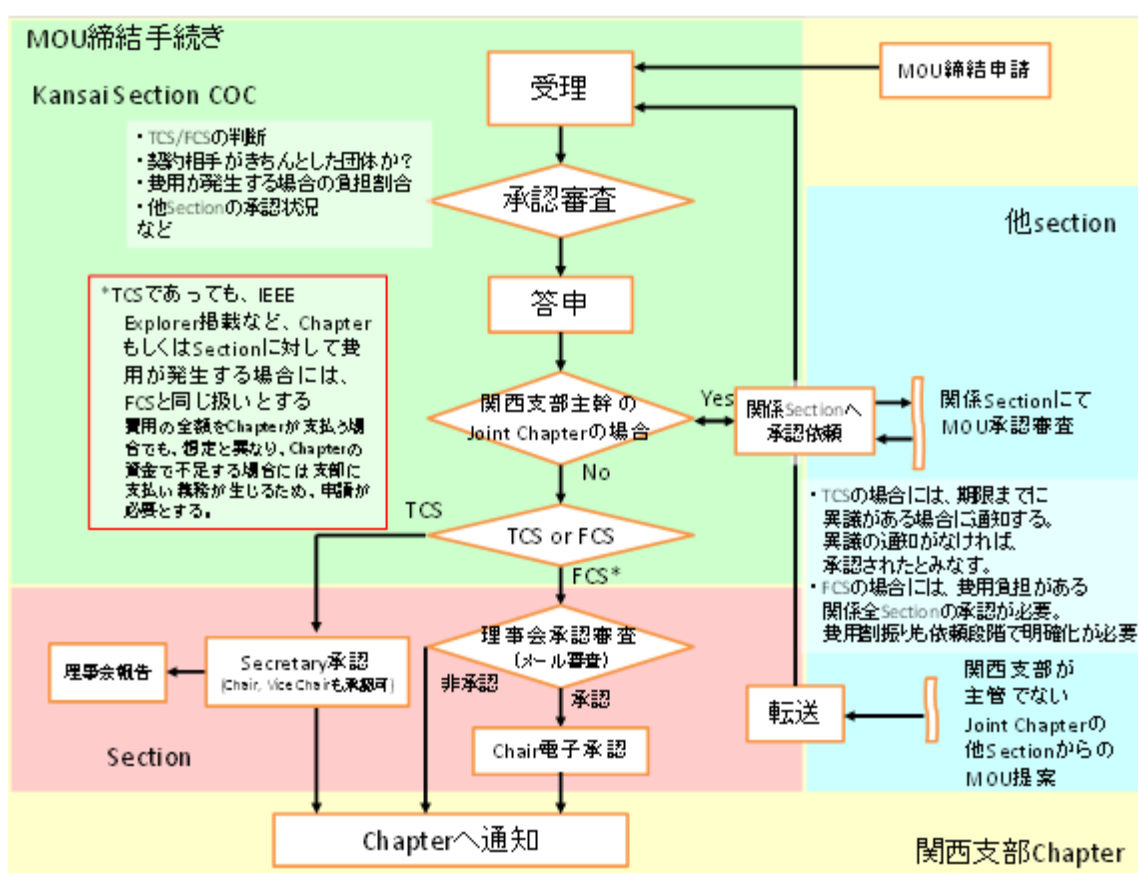
なお、以下の共催または協賛は MOU を必要としない。

1. 会議の共催または協賛には、IEEE の名称を出さない間接的協力。日本でいう「協賛」の多くがこれに該当。
2. (IEEE の名称を出す)が)財政規模の小さい(<25,000 USD)会議への協力。ただし、全ての責任は実施組織に求められる。特に、以下の点に注意。
  - ① IEEE の logo を使う場合には、IEEE policy に従って運営する。
  - ② 何等かの責任を負う場合には、責任の内容によっては MOU を締結することが好ましい

場合がある。判断に迷う場合には、支部もしくは JC-COC に問い合わせる。

共催/協賛 承認 に先だって、次のことを済ませておく。

1. 事前に相手先の組織を確認し、実態不明の組織との「共催」とならないことを確認。
1. Organizational Unit (OU) 間の協議で、Financial Co-sponsorship か Technical Co-sponsorship かを決定。
2. 関係する OU 間で責任分担を明確にして、MOU を作成。
3. 本規程は、施行/改定承認日から適用する。



2017年1月1日施行

## IEEE 関西支部メダル授与規定

関西支部は、関西支部活動への積極的な参画を動機付けること、及び、Member Grade の昇格を動機付けることを目的とし、また、関西支部活動のアピールを行なうことにより関西支部の活性化に繋げることを目的として、IEEE 関西支部メダルを下記の者に授与する。

1. 関西支部に所属する新 Fellow で、Senior Member 昇格時に IEEE 関西支部メダルを贈呈されなかった者
2. 総会の前年の 1 年間の間に関西支部で新 Senior Member に昇格した者
3. 支部長が推薦し、理事会において承認された者

また、下記の希望者に対しては、支部長が推薦し、理事会において承認された上で、有償にて授与することができる。但し、その金額は IEEE 関西支部メダルを造幣局から購入した最新の購入単価とする。

1. 関西支部に所属する Fellow 又は Senior Member の希望者で、Fellow 昇格時又は Senior Member 昇格時において IEEE 関西支部メダルを贈呈されなかった者
2. 関西支部内部の運営に貢献のあった者
3. 上記以外の特別な理由で理事会の承認を得た者

本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2008 年 9 月 17 日改定

2010 年 6 月 23 日改定

2012 年 1 月 4 日改定

2014 年 5 月 9 日改定

2017 年 1 月 1 日改定

## IEEE 賞状用紙支給に関する規定について

IEEE Japan Council の Award 登録を行った Chapter、Affinity Group、Student Branch の表彰に対し、IEEE の賞状に台紙を支給することができる。

### 1. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① IEEE Japan Council の Award 登録手続きに従い、登録を行う。
- ② IEEE Japan Council の Award 登録用紙(Excel)、賞状の必要枚数、賞状送付先住所氏名を添え、賞状授与申請のメールを関西支部事務局(sec-kansai@ieee-jp.org)に送付する。なお、申請は会合の2週間以上前とする。  
メールタイトルは、「【IEEE 賞状授与申請】[組織名]必要に応じて備考」としていただきたい。
- ③ 内容を確認し、問題がなければ Award Committee より、所定の住所へ賞状を発送する。
- ④ 授与組織は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、関西支部事務局にメール送付する。

### 2. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016年10月20日施行

2017年1月1日改定

## IEEE 関西支部 Chapter 予算補てんに関する規定について

Chapter が活動を行う際に、関西支部からの Rebate、Society からの支援では活動費がまかなえない場合に、関西支部が Chapter の不足額の補てんについては、原則として以下のとおりとする。

### 1. 予算について

年初に Chapter 支援総額を予算化し、その予算の中で運用する。

なお、予算総額については、2月に開催される総会で承認をする。予算額は、その年の支部の活動、為替レートなどにより変動する可能性がある。

1年間の Chapter あたりの補てん額の上限は 3 万円とする。なお、予算総額に応じ、上限額は変わることがある。

### 2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① Chapter より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、現在の Chapter 資金、会合にかかる想定費用、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Chapter Operation Committee (COC) に送付する。なお、申請は会合の 3 週間以上前とする。
- ② COC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、Chapter からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ Chapter に承認の可否を連絡する。
- ④ Chapter は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、各種領収書、請求書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、請求書の原本を関西支部事務局に送付する。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、Chapter に所定の金額を振り込む。

### 3. 補てん可能な内容について

#### ① 講演者への謝礼

原則、IEEE 会員の講演者については、謝礼を遠慮していただいているが、謝礼をしなければ、有用な事業が実施できない場合に、支援を行う。

- i) Chapter が「主催」もしくは「共催」する事業に限定する
- ii) 謝礼額は、原則として、Chapter ごとの差が出ないように、1 名 1 万円とする
- iii) 支援を受ける事業については、Chapter のホームページ等で Chapter 会員に周知する。
- iv) 想定参加人数は、10 名以上であること。



② 役員会合に対する支援

Chapter の役員会合に対しては、Japan Council からは支援が受けられないが、役員  
の力が Chapter 活動に大きく影響するため、役員会合に対しても一定の支援を行うこと  
にする。ただし、飲食に対する支援は、1 回/年とする。

- i) 会合の参加者は 3 名以上
- ii) IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- iii) 支援額は、飲食代の 1/2 以下とする
  - ・1 名あたりの支援額の上限を 2,000 円(税抜き)とする
  - ・会合の終了時間が 19 時以降の場合に支援を行う

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 9 月 23 日施行

2017 年 1 月 1 日改定

## IEEE 関西支部 SB 支援に関する規定について

関西支部が Student Branch(SB)活動に対する支援については、原則として以下のとおりとする。

### 1. 予算について

- ① 1事業の支援額の上限は3万円とする。なお、旅費は除く。
- ② 支部の予算状況に応じて運用し、支援を保障するものではない。

### 2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① SBより、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Student Activities Committee(SAC)に送付する。なお、申請は会合の3週間以上前とする。
- ② SACは、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、SBからの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ SBに承認の可否を連絡する。
- ④ SBは会合開催後、活動報告レポートの関西支部への提出及びSBのホームページへの活動報告の登録を行った後に、領収書のPDFを関西支部事務局にメール送付するとともに、領収書の原本を関西支部事務局に送付する。  
なお、活動報告のレポートには、
  - ・開催日時、場所
  - ・参加人数および可能であれば、IEEE会員の参加人数
  - ・イベントの規模がわかる写真
  - ・副賞などの支援を行った場合には、受賞者の写真を掲載することが望ましい。SBのホームページには活動報告のレポートを掲載するなどに対応してもよい。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、SB口座に所定の金額を振り込む。

### 3. 支援内容について

SBの活動に対し、

- ① IEEE会合に付随して開催されること。
- ② IEEE本部の Meeting Report が作成されていること
- ③ SBのホームページに会合の報告が公開されること

の条件が満たされ、かつ、各項目記載の条件を満たす場合に、以下のような支援を行う

- ④ 会合に付随する飲食の支援について  
以下の要件を満たす場合に、費用の1/2もしくは、2,000円(税抜)/人の低い額を支援する。
  - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上
- ⑤ 会合に参加する際の旅費の支援について  
以下の要件を満たす場合に、旅費交通費を支援する。
  - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上

ii) 運営側、もしくは発表者として参加していること。単なる参加者には支援を行わない。

支援対象者の役割一覧を提出すること

⑥ 発表会などの副賞について

以下の要件を満たす場合に、副賞を支援する。

- i) IEEE 会合に参加している人数が 10 名以上
- ii) 副賞を受け取れる人数は参加者の 10%以下
- iii) 副賞は現金以外(図書券など)とする
- iv) 副賞の上限は 10,000 円/人とする

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・ 事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 12 月 20 日施行

## IEEE 関西支部理事会役員に関する規定について

IEEE 関西支部理事会及び支部長が指名する理事役員として、以下のメンバーを関西支部の理事役員とする。

### 1. Past 役員

Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer, Past Committee Chair についても、Chair もしくは理事会で指名した場合には、理事役員とする。

### 2. Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者

現行 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer の残り任期が 1 年以下の期間に、Chair もしくは理事会で指名した場合に、次期 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者を理事役員とする。なお、立候補予定者は、次期役員として立候補することを前提とする。また、候補予定者が役員となる時には、Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer は原則として役員を退任する。

### 3. 適用日

本規定は、2018 年 1 月 31 日から適用する。

2018 年 1 月 30 日理事会承認

## 参考

### By Laws より

such other members appointed by the Section Executive Committee, and such other members appointed by the Section Chairman.

### MGA Operation Manual/9.4 Sections/D. Section Management

1. The Section affairs shall be managed by an Executive Committee consisting of the elected officers. The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed. Chapter and Affinity Group Chairs, as elected by their membership, are considered "elected" official, as is the Past Section Chair.  
※その他の Past Vice Chair, Past Committee Chair 等については、記載がない
2. All Chapters and Affinity Groups in the Section shall have voting representation either individually or collectively on the Section Executive Committee, and the Subsection Chairs shall be ex-officio members with voting power.
3. Sections may have Student representation on the Executive Committee through appointment of one Student member and/or the Chair of the Section Student Activities Committee. It is recommended that every Section have a Section Student Representative (SSR), who is a voting member of the Section Committee, in Sections where there is at least one Student Branch.
4. A quorum is required for administrative meetings. A majority of the voting members the committee shall constitute a quorum. These meetings shall be conducted in accordance with Robert's Rules of Order (latest version) as the standard parliamentary authority.
5. Reasonable efforts should be made to notify all members of Section meetings and activities. Methods of communication could be, but are not limited to, email distributions (in keeping with IEEE email policies), postings on Section Web sites, social media venues, or hard copy distributions.

関西支部では、Chair, Vice Chair, Secretary, Treasurer, MDC Chair, NC Chair, SAC Chair, TPC Chair, AC Chair, COC Chair の 10 名 + LMAG Chair, WIE Chair, YP Chair, Past Chair の合計 14 名が選挙で選ばれた役員/理事。従って、役員/理事総数は 27 名以下。なお、Past Chair も退任する場合、Secretary と Treasurer が兼任の場合には、役員/理事会総数は 25 名以下。

基本的には、Elected 扱いの Past Chair が残っていれば、他のすべての役職の Past もしくは立候補予定者が入っても、必ず、選挙で選ばれた役員は過半数を超えるが、Past Chair の代わりに Chair 立候補予定者となってしまうと、どれかの役職の Past もしくは立候補予定者が理事会に入らない状態にならないければ、選挙で選ばれた役員数が過半数を超える状態にならないため、注意が必要。

2019 年 IEEE 関西支部連絡先  
〒661-0974 兵庫県 尼崎市 若王寺 3-11-20  
関西電力株式会社  
技術研究所 内  
IEEE 関西支部事務局  
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org  
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>  
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>